

目 次

【総括】	P 1
I サービス提供について	
1 事業の目的と運営	P 2
2 利用者のニーズに対応した支援サービスの展開	P 2
3 利用者が自信をもって取り組める活動の提供	P 2
4 短期入所（ショートステイ）サービスについて	P 2
5 共同生活援助（グループホーム）について	P 2～3
6 パン直売所の運営について	P 3
7 利用者支援での事故について	P 3
8 給食について	P 3
9 苦情解決第三者委員及び虐待防止委員の活動	P 3
II 「新型コロナウイルス感染拡大防止対策」について	
1 施設運営の対応	P 4
2 利用者、保護者への対応（文書でお知らせした）	P 4
3 新型コロナウイルス対策に係る助成金及び配布物の活用	P 5～6
III 法人運営	
1 理事会並びに評議員会の開催について	P 7
2 監事による監査	P 7
3 役員・評議員・後援会役員・保護者会役員合同研修	P 7
IV 職員の状況	P 8
V 利用状況	
1 年齢の状況	P 8
2 市町村別利用者の状況	P 8
3 施設の利用状況	P 8～9
4 障害支援区分状況	P 9
5 短期入所の利用状況	P 9
6 計画相談支援件数	P 9
7 新規利用者及び退所の状況	P 10
VI 施設整備	
1 施設の整備	P 10
VII 事業に関する報告等	
1 行事・研修	P 10
2 外部研修	P 10
3 防災訓練	P 10
4 年間外部販売	P 11
5 地域住民・ボランティア等との交流促進	P 11
6 年間見学者受け入れ状況	P 11
7 年間ボランティア受け入れ状況	P 11
8 実習生受け入れ状況	P 12
9 就労支援事業収支	P 13
VIII 事業報告の附属明細書	
1 事業報告の附属明細書	P 14

令和2年度 社会福祉法人松の実福祉社会事業報告書

【総括】

- 1 多様なニーズに対応した支援サービスの展開
 - 利用者一人ひとりの生活状況、行動特性、年齢等を考慮しつつ、利用者本人のニーズや家族の意向に基づいた個別支援計画を作成し、松の実の活動スペース及びマンパワーをできる限り活用して利用者本位のサービス提供に努めた。
 - ここ数年前からの課題として浮かび上がってきている「利用者の高齢化に伴う支援の在り方」については、利用者及び家族と相談しながら適正な介護保険活用を進めた。今後も継続した高齢化に伴う支援の在り方を検討する必要がある。
- 2 利用者が自信を持って取り組める生産活動と創作的活動の提供
 - B型で利用者の能力、意向に応じた作業種目（販売の仕事も含む）の提供を行うことで、やりがいにつながる日中活動の実践に努めた。
 - 生活介護で令和3年2月よりタオルたたみの仕事を請け負うことになり、利用者全員が同じ仕事内容に取り組むことができた。また個別活動の内容を見直して、個別活動と創作的活動に分けて内容の充実を図ることにした。
- 3 共同生活援助事業（グループホーム）の支援体制について
 - 利用者にとって安心して暮らせるグループホームの運営に努めてきた。女子利用者1人が退所して部屋があいている状態である。現在1名の募集を継続している。
 - 安心して暮らせるグループホーム支援体制づくりに努めている。昨年度2回の震度5強の地震では、担当職員が連携して迅速な対応ができた。
- 4 人権に配慮した支援サービスの提供
 - 全職員を対象にした「苦情解決・虐待防止」に関する研修は、4月の事業計画説明会で実施している。日常の支援において利用者を大切にす視点を姿勢等を学びながら、利用者の人権に関わる意識醸成に努めた。
 - 施設において「苦情」の受付を随時行い対応している。職員一同サービス向上に努めた。苦情相談は一件もなかった。
- 5 利用者事故に対する対応
 - 利用者支援における事故は一件もなかった。
- 6 新型コロナウイルス感染防止対策について
 - 厚生労働省及び宮城県より通知される「新型コロナウイルス感染症対策」に基づき感染防止の徹底に職員・利用者・保護者一丸となって取り組んだ。

I サービス提供について

1 事業の目的と運営

- 障害者総合支援法に基づく通所の多機能型事業所として、利用者一人ひとりの能力・可能性が発揮できるように利用者の心身の状況・生活状況，行動特性・障害の実態，年齢と作業経験等に応じた支援を職員共通理解の下で行った。

2 利用者のニーズに対応した支援サービスの展開

- 利用者一人ひとりの希望・課題・ニーズ等を考慮しつつ，保護者の意向も取り入れて個別支援計画を作成し，利用者支援のサービス提供に努めた。

3 利用者が自信を持って取り組める活動の提供

<就労継続支援 B 型>

- 利用者の能力，実態，作業経歴，意向に応じた作業種目の提供を行うことで，利用者一人ひとりにとってやりがいにつながる日中活動（主として作業）の提供に努めた。
- 利用者とは個別に面談を実施し，本人の希望と生産活動及び就労に必要な訓練の課題を考慮して個別支援計画を作成した。全職員で個別支援計画を共通理解し，月ごとに評価を行って利用者一人ひとりの個別目標達成に向けて支援を行った。
- 施設内の整理整頓に努めた。作業ごとに使用する備品の場所を固定することで，準備から片付けまで利用者自身で行えるように努めた（作業場の構造化）。
- 就労継続支援 A 型及び就労移行支援での職場実習を希望する利用者はいなかった。

<生活介護>

- 個別活動を主として生活能力の向上のために必要な援助を行った。個別支援計画に基づいて取り組むことができた。
- 利用者の実態・行動特性や希望等に基づいた個別活動を中心に日中活動のサービス提供を行った。利用者にとって活動の満足感が得られる日中活動の提供ができた。
- 利用者それぞれが好んで行う活動を提供して，活動の満足感が得られるよう支援に努めた。また週 1 回の公園清掃活動（ごみ拾い）を行い地域の方と交流に努めた。
- 2 月より掃除用タオルたたみの仕事を依頼され，生産活動として取り組み始めた。

4 短期入所(ショートステイ)サービスについて

- 松島町を含む二市三町での短期入所(ショートステイ)サービス提供を実施する施設が少ないので，短期入所サービス提供を開始して 2 年が経過した。利用者の実態に応じてサービス提供を行いトラブル等はなかった。
- 2 年目のサービス提供なので，利用者もサービス内容を十分に理解して自主的に活動することができた。短期入所利用登録者 2 3 人が，水曜日の夕方から翌日の朝までサービスを利用した。延利用人数 1 2 6 人であった。

5 共同生活援助(グループホーム)について

- 女子グループホームの利用者 1 名は，令和 2 年 1 2 月に今後の生活を見越して老人ホームを併設している障害者グループホームに入所するため退所した。そのため女子グループホーム利用者を募集したが申込者はいない状態である。
- 男子の利用者 3 人はサービス提供を受けながら元気に通勤している。

○男子と女子グループホームでの事故はなしであった。

○地震対応について

①令和3年2月13日(土)午後11時8分

福島沖M7.1 津波なし 松島震度5強

- ・共同生活援助担当職員2名が地震がおさまってから電話で安全確認と建物の被害を確認した。その後メールで施設長に報告を行った。
- ・施設長と事務長は電話で情報共有を行った。
- ・町内在住の施設長が地震後20分以内に男子、女子グループホームそして町内で一人暮らしの男子利用者宅を訪問し安否確認と安全確認を行った。女子グループホームでは世話人から地震時の様子や身を守る対応について聞き取りを短時間で行った。一人暮らしの利用者は部屋の中で座っておさまるのを待っていたとのことであった。

②令和3年3月20日(土)午後6時9分

宮城県沖M6.9 津波注意報 松島震度5強

- ・共同生活援助担当職員2名が地震後電話で安全確認と建物の被害を確認した。その後メールで施設長に報告を行った。
- ・施設長と事務長は電話で情報共有を行った。
- ・津波注意報が発令されたため施設長は5分後に男子グループホームに駆け付け午後7時10分まで利用者と待機した。その後女子グループホームと一人暮らしの利用者宅を訪問し安全を確認した。

6 パン直売所の運営について

- ・今年度は新型コロナウイルス感染拡大の防止策を取りながら、パン直売所を毎週水・金曜日の二日間営業した。周辺の施設に勤務する職員や通りすがりの方がパンを購入した。また利用者も昼休みに購入するのを楽しみにしている。今年度のパン直売所の売上額は1,023,030円であった。

7 利用者支援での事故について

- ・利用者支援における事故はなかった。利用者優先の体制、利用者の行動特性への配慮、職員の安全管理意識等の観点を継続して、利用者事故ゼロに努めた。

8 給食について

- 今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止策として、調理員さんが盛り付けしたトレイを職員がテーブルに配膳する方式を採用した。また給食中に利用者は同一方向を向いて食事をする方式にした。あわせて食事のおしゃべりは慎むよう指導した。手指の消毒も徹底して指導に努めた。献立についても委託業者と連携を密にして給食を提供することができた。

9 苦情解決第三者委員及び虐待防止第三者委員の活動

- 就労継続支援B型利用者、生活介護利用者、共同生活援助利用者、短期入所利用者からの苦情と虐待の申し立てはありませんでした。

Ⅱ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策について

1 施設運営の対応

- ① 生活介護とB型の給食場所を別にし、利用者は一方向を向いて食べることにした。
- ② 町内帰宅用の車両をマイクロバスとワゴン車を使い乗車人数の分散を図った。
- ③ 毎朝、非接触式体温計を使用して利用者の体温測定を行った。
- ④ 密な空間の回避、作業室等の換気、利用者配置の工夫を徹底した。
- ⑤ 作業前に作業テーブルの消毒を徹底した。
- ⑥ 使用後に車両消毒を徹底した。
- ⑦ ペーパータオル使用と蓋付きゴミ箱(ペダル式)使用の徹底を図った。
- ⑧ 利用者帰宅後ホール等のアルコール消毒を毎日行った。
- ⑨ 行事等の自粛を行った(開所式、お花見散策、一泊旅行、西行戻しの松での販売)。

2 利用者・保護者への対応(文書でお知らせした)

- ① 令和2年4月1日:松の実通信「プチ健康だより」でマスク着用・手指のアルコール消毒と37.5度以上の発熱がある場合は早めに医療機関の受診を呼びかけた。
- ② 令和2年4月10日:7都府県に緊急事態宣言が発令されたので、利用者の不要・不急の外出自粛の協力を呼びかけた。
- ③ 令和2年4月13日:利用者の安心・安全のため短期入所の利用を6月16日まで中止にした。
- ④ 令和2年4月17日:ゴールデンウィーク中の松の実閉所を4/29~5/6とし、その間利用者には朝と夕に体温を記録してもらった。
- ⑤ 令和2年5月11日:松の実利用者へマスク着用を再度お願いした。
- ⑥ 令和2年5月18日:緊急事態宣言の解除後もマスク着用・朝の検温・手洗いうがいの励行を呼びかけた。
- ⑦ 令和2年5月29日:松の実で実施している新型コロナウイルス対策を8項目にまとめて提示し、家庭と協力して進めることにした。
- ⑧ 令和2年7月30日:「新型コロナウイルス感染拡大防止」と「利用者及び職員の健康を守る」ため一泊旅行を中止とした。
- ⑨ 令和2年8月6日:夏季休業中に新型コロナウイルス感染拡大防止のための新しい生活様式のチラシを配布した。
- ⑩ 令和3年1月22日:利用者と保護者に新型コロナウイルス感染防止のため、マスク非着用と発熱や咳の症状のときは利用をお断りすることを伝えた。

3 新型コロナウイルス対策に係る助成金及び配布物の活用

(1) 宮城県新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業（障害分）利用明細

助成金購入物					
対象期間 令和2年4月～令和3年2月	生活介護 ・ 就労継続 支援B型	グルー プホー ム	短期入所	計画相 談支援	計(個数)
＜購入物＞					
アクリルパーテーション	4	3			7
加湿空気清浄機	5	2	2	1	10
ペダル式消毒ポンプ	4	2	1		7
加湿器	2	7	2		11
自動アルコール消毒噴霧器	7		1		8
自動ハンドソープディスペンサー	8		1		9
非接触式体温計	2				2
サーモマネージャー	2				2
ペーパータオルケース	15				15
フタ付きゴミ箱	9				9
ラック(消毒置き)	2				2
使い捨て手袋					
手洗い石鹸					
消毒液					
ペーパータオル					
フェイスシールド					
使い捨て防護服					
ゴミ袋・ポリ袋等					
助成金利用額(円)	757,000	389,000	204,000	55,000	1,405,000

(2) 宮城県より配布物一覧 (新型コロナウイルス感染症拡大防止対策)

月	日	品目	個数	事業所	配布について		
4	2	布製マスク	30	松の実	}	利用者 46名 各1枚	
	4	布製マスク	25	ショート		職員 21名 各3枚	
	5	布製マスク	20	GH		世話人 8名 各3枚	
	6	布製マスク	60	松の実		品井沼 3名 各2枚	
	24	消毒液200mL	4	松の実	各事業所にて使用		
		消毒液200mL	4	ショート			
		消毒液200mL	4	GH			
	28	消毒液200mL	4	松の実			
		消毒液200mL	4	ショート			
		消毒液200mL	4	GH			
6	1	洗えるマスク	30	ショート	}	利用者 46名 各2枚	
		洗えるマスク	20	GH		職員 21名 各1枚	
		洗えるマスク	90	松の実		世話人 8名 各2枚	
						品井沼 3名 各1枚	
						勤労青少年 6名 各2枚	
9	4	洗えるマスク	400	松の実	}	利用者 45名 各5枚	
						職員 21名 各6枚	
						世話人 8名 各5枚	
						品井沼 3名 各1枚	
						勤労青少年 6名 各1枚	
10	1	消毒液800mL	1	松の実	各事業所にて使用		
		消毒液800mL	1	GH			
11	27	ゴム手袋S	10	GH	GH (男女) 各2箱	残数は松の実にて保管し補充している	
		ゴム手袋M	20	GH	GH (男女) 各2箱		
		ゴム手袋L	10	GH	GH (男女) 各2箱		
1	14	ゴム手袋	20	松の実	松の実にて保管使用		M20箱
		ゴム手袋	20	ショート			M20箱
2	9	不織布マスク	100	松の実	給食・パン班で使用		
	12	消毒液800mL	20	GH	各事業所にて使用、残数は松の実にて保管		
	15	消毒液800mL	10	松の実			
	17	ゴム手袋	10	松の実	松の実にて保管使用		M20箱
	18	ゴム手袋	10	GH			M20箱
	22	ゴム手袋	10	ショート			M20箱
	26	医療用ガウン	200	松の実	各事業所にて使用		
		ヘアキャップ	200	松の実			
		医療用ガウン	300	GH			
		ヘアキャップ	300	GH			
		医療用ガウン	200	ショート			
		ヘアキャップ	200	ショート			

※ 6月18日 24時間テレビチャリティー委員会より洗えるマスク100枚寄贈される

※ 3月26日 24時間テレビチャリティー委員会よりパルスオキシメーター1台寄贈される

Ⅲ 法人運営

1 理事会並びに評議員会の開催については計画どおり開催することができた。

(1) 理事会

第1回	令和2年5月24日(日) 10:00~12:10 <決議事項> 第1号議案 令和元年度事業報告及び令和元年度計算書類等の承認の件 第2号議案 定款変更の件 第3号議案 定時評議員会の招集の件
第2回	令和3年3月14日(日) 10:00~ <決議事項> 第1号議案 基本財産の処分承認の件 第2号議案 令和3年度事業計画(案)の件 第3号議案 松の実本館増改築工事及び令和3年度収支予算(案)の件 第4号議案 正職員就業規則の変更の件 第5号議案 松の実開所20周年記念式典の件 第6号議案 評議員会の招集の件 <報告事項> 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

(2) 評議員会

第1回	定時評議員会 令和2年6月14日(日) 10:00~ <決議事項> 第1号議案 令和元年度計算書類及び財産目録の承認の件 第2号議案 定款変更の件 <報告事項> 令和元年度事業報告の件
第2回	令和3年3月27日(土) 10:00~ <決議事項> 第1号議案 基本財産の処分承認の件 第2号議案 令和3年度事業計画(案)の件 第3号議案 松の実本館増改築工事及び令和3年度予算案の件 <報告事項> 1 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告 2 松の実開所20周年記念式典の件

2 監事による監査

監査日	監査内容	監査員
令和2年 5月12日	1 令和元年度事業報告 2 令和元年度財産目録 3 令和元年度貸借対照表及び収支計算書	監事：大山憲一 監事：鈴木正夫

3 役員・評議員・後援会役員・保護会役員による合同研修会
 新型コロナウイルス感染防止のため開催せず

IV 職員の状況

令和2年度中は4名の職員を採用し、3月31日現在23名の職員が在籍しており、その内訳は下記のとおりとなっている。

項目	常勤(人)	非常勤(人)	計(人)	退職者(人)
施設長	1		1	
事務長	1		1	
事務職員	2		2	
就労B型職員	6	3	9	1
生活介護職員	3	3	6	
相談支援専門員	1		1	
サービス管理責任者	1		1	
運転手兼職業指導員		2	2	
グループホーム世話人		7	7	

V 利用状況

1 年齢の状況(令和3年3月31日現在)

項目	～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70歳 ～	計
生活介護	1人	0人	4人	1人	0人	2人	0人	8人
就労B型	4人	6人	8人	5人	5人	6人	1人	35人

2 市町村別利用者の状況(令和3年3月31日現在) ○はグループホーム利用者

市町村	松島町	東松島市	利府町	塩竈市	大郷町	七ヶ浜町	栗原市	計
生活介護	3	3	0	2	0	0	0	8①
就労B型	20①	5①	4	2	2①	1①	1①	35⑤

3 施設の利用状況

○生活介護(利用者数4月～10月:10人 11月:9人 12月～3月:8人)

項目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年計
開所日 数(日)	21	17	22	23	19	22	23	22	23	23	20	23	258日
延利用 者人数	182	157	200	196	156	181	178	158	157	138	134	146	1,983 人
一日平 均利用 者数	8.7	9.2	9.1	8.5	8.2	9.5	8.1	7.2	6.8	6.0	6.7	7.3	7.7人

○就労継続 B 型（利用者数 4 月～7 月：36 人 8 月～3 月：35 人）

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
開所日数(日)	21	17	22	23	19	22	23	22	23	23	20	23	258
延利用者人数	676	561	730	738	596	702	727	690	723	716	632	744	8,235
一日平均利用者数	33.5	32.8	34.0	34.3	34.6	34.0	33.4	33.9	33.8	32.0	32.4	32.2	32.0

4 障害支援区分状況（令和 3 年 3 月 31 日現在 単位：人）

支援区分	生活	B型	支援区分の大まかな目安（松の実で作成）
6	1	0	重度(自立歩行が困難、若しくは寝たきりの状態)
5	0	0	身の回りのこともほとんどできないため、常時の介護が必要である。
4	4	2	日常生活における身の回りのことも多くの支援が必要である。
3	2	11	家庭内での単純な日常生活はできるが、時に応じて援助が必要である。
2	1	14	家庭内での日常生活は普通にできるが、社会生活上で問題がある。
1		1	軽度
無区分		7	
合計	8	35	

5 短期入所の利用状況・・・利用延べ人数 129 人

（単位：人）

項目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
男	0	0	3	7	4	5	8	8	7	7	4	8	61
女	3	0	3	8	7	4	8	8	7	8	8	4	68
計	3	0	6	15	11	9	16	16	14	15	12	12	129

6 計画相談支援件数

項目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
更新	13	1	0	0	1	2	1	0	0	0	1	4	23 件
モニタリング	2	13	13	14	2	7	15	2	4	1	1	2	76 件
計	15	14	13	14	3	9	16	2	4	1	2	6	99 件

7 新規利用者及び退所の状況

(1) 新規利用者

項目	利用者数	備考
生活介護	1人	・令和2年 4月 1日付け 支援学校卒業生利用開始
就労B型	0人	

(2) 退所者

項目	退所者数	備考
生活介護	2人	・令和2年10月21日付け 入所施設利用のため ・令和2年12月11日付け 他施設利用のため
就労B型	2人	・令和2年 7月21日付け 他施設利用のため ・令和3年 3月31日付け 在宅希望のため

VI 施設整備

1 施設の整備

期 日	整備内容
令和2年 4月10日	AED（自動体外式除細動器）購入
令和2年 9月 5日	給食調理室エアコン一台設置
令和2年12月21日	主として相談支援事業用として軽車両一台購入

VII 事業に関する報告等

1 行事・研修

月 日	内 容
令和2年4月10日	A L S O K A E D 講習

2 外部研修・・・令和2年度外部研修

月 日	研 修 名	主 催	参加者
7月10日	宮城県社会福祉施設中堅・監督職員研修	宮城県社会福祉協議会	鈴木 隆
10月2日	保健担当職員研修	宮城県知的障害者福祉協会	奥山 真央

3 消防訓練

訓練事項	実施時期	備考
防災訓練	6月30日 10月 8日	6月：地震・火災 2月：4施設合同 防災訓練

4 年間外部販売

下記の日程にて外部販売を行った。

月 日	イベント名	主 催	会 場	売 上
8月28日 ～9月7日	松島町総合健診	松島町	松の実パン直売所	484,190円

5 地域住民・ボランティア等との交流促進

社会奉仕活動の一環として地域住民・ボランティア等の交流を行った。内容は以下のとおりである。

月 日	内 容	場 所	備 考
月2回	地域奉仕活動	松島町保健福祉センター周辺	ゴミ拾い

6 年間見学者受け入れ状況

今年度の施設見学は下記のとおりである。

月 日	団 体 名	市町村名	人 数
4月 3日	個人（松島町社会福祉協議会付き添い）	松島町	4人
5月22日	個人（松島町健康長寿課付き添い）	松島町	2人
6月 2日	多機能サポートランドさわおとの森	利府町	4人
8月25日	個人（相談支援事業所カノン付き添い）	東松島市	3人
10月 9日	宮城県立視覚支援学校	仙台市	2人
11月19日	個人（宮城県立精神医療センター付き添い）	松島町	3人
11月26日	宮城県立利府支援学校	利府町	17人
11月27日	宮城県立視覚支援学校	仙台市	2人

7 年間ボランティア受け入れ状況

今年度のボランティア受け入れの人数合計は以下のとおりである。保護者の方々などたくさんの方々が地域を問わず松の実に訪れ利用者と一緒に作業を行った。

団 体 名	人 数
保護者ボランティア（松島町総合健診販売）	3人
保護者ボランティア（箱折り）	47人
合 計	50人

8 実習受け入れ状況

○支援学校・中学校関係

学 校 名	期 間	人 数
宮城県立利府支援学校	(10月 1日～10月 7日)	2人
宮城県立利府支援学校	(10月27日～10月28日)	2人
宮城県立利府支援学校	(10月29日～10月30日)	2人
宮城県立利府支援学校	(11月 2日～11月 6日)	2人
宮城県立利府支援学校	(11月 9日～11月13日)	2人
宮城県立石巻支援学校	(11月16日～11月20日)	1人
宮城県立視覚支援学校	(1月25日～ 1月26日)	1人
合 計		12人

○大学・専門学校関係

学 校 名	期 間	人 数
東北生活文化大学短期大学部	(7月20日～ 8月 4日)	2人
聖和学園短期大学	(8月17日～ 8月28日)	2人
仙台白百合女子大学	(10月 5日～10月 9日)	1人
仙台幼児保育専門学校	(10月12日～10月23日)	1人
仙台幼児保育専門学校	(11月 2日～11月16日)	1人
尚綱学院大学	(2月 8日～ 2月22日)	1人
合 計		8人

9 就労支援事業収支

○収入の部

支援事業科目	予算額	決算額	比較増減(※)
パ ン	10,500,000	8,216,620	△ 2,283,380
受託加工	4,100,000	3,608,181	△ 491,819
清掃	2,270,000	2,270,400	400
管理委託業務	11,743,300	11,761,952	18,652
だ ん ご	5,900,000	3,798,680	△ 2,101,320
トマト糸巻き	292,000	292,000	0
印刷業務	250,000	129,131	△ 120,869
収入計	35,055,300	30,076,964	△ 4,978,336

○支出の部

支援事業科目	予算額	決算額	比較増減(※)	
材 料 費	パ ン	4,947,000	3,819,352	△ 1,127,648
	受託加工	1,000,000	1,065,618	65,618
	清掃	0	0	0
	管理委託業務	0	0	0
	だ ん ご	3,024,000	1,867,499	△ 1,156,501
	トマト糸巻き	0	0	0
	印刷業務	100,000	68,396	△ 31,604
	小計	9,071,000	6,820,865	△ 2,250,135
経費および 一般管理費	利用者工賃	9,700,000	6,856,955	△ 2,843,045
	指導員給与	10,757,300	10,830,876	73,576
	福利厚生費	213,000	17,920	△ 195,080
	旅費交通費	0	660	660
	器具什器費	145,000	0	△ 145,000
	消耗品費	407,000	505,829	98,829
	修繕費	413,000	261,156	△ 151,844
	燃料費	808,000	677,972	△ 130,028
	印刷製本費	0	0	0
	通信運搬費	63,000	51,073	△ 11,927
	賃借料	4,000	0	△ 4,000
	租税公課	769,000	783,274	14,274
	図書・教育費	0	0	0
	水道光熱費	807,000	558,858	△ 248,142
	受注活動費	1,375,000	2,237,636	862,636
	損害保険料	453,000	419,010	△ 33,990
雑費	70,000	54,880	△ 15,120	
小計	25,984,300	23,256,099	△ 2,728,201	
工賃変動積立金取崩額	0	0	0	
繰越金	0	0	0	
支出計	35,055,300	30,076,964	△ 4,978,336	

※) △ = 予算額に対する減。

令和2年度就労継続支援B型の平均工賃は、15,329円となっている。

事業報告の附属明細書

令和2年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、
事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人松の実福社会